令和8年9月29日（火）
大崎タイムス掲載

“鶏肉加工業のまち”PR

涌谷 チキンフェスにぎわう

ブランド鶏肉「森林どり」を使ったさまざまな料理を売り出す「わくやチキンフェスティバル」が20日、涌谷町字尾切のウェルファムフーズ宮城事業所駐車場で開かれた。涌谷、美里両町の飲食店事業者らが、おぼろ豆腐丼や鶏マーボー、鶏バッテラなど新製品を紹介し、多くの来場者でにぎわった。

「森林どり」料理販売

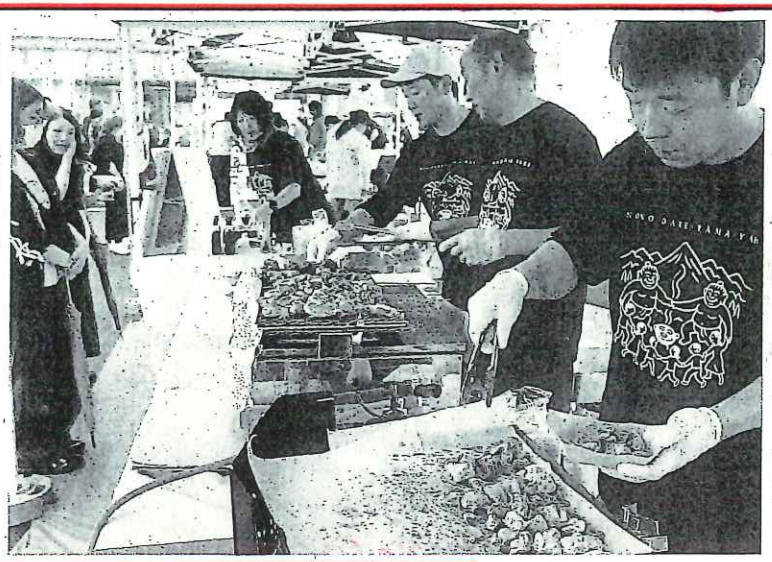
両町の14店を含む19事業者が参加し、炊き込みご飯やチキン南蛮、手羽唐揚げなど約30種類を販売。このうち涌谷町猪岡短台の「割烹みうら」は、森林どりの生肉を網や鉄板で豪快に焼き上げると、香ばしい香りに誘われて多くの人が訪れ、次々と買い求めていた。

涌谷高美術部が考案したPRキャラクターの名前も披露された。その名も「わくチキむね」。涌谷と鶏肉、仙台藩祖伊達政宗を掛け合わせたネーミングとデザインで、サクラの花びらを模した眼帯ととさかが特徴の鶏が陣羽織を羽織っている。

ウェルファムフーズの小田切基浩社長は「新製品を通し、鶏肉加工業のまちとして町の新たな発展の可能性を感じてほしい」と話していた。

森林どりは、食肉生産加工大手ウェルファムフーズ（東京都）の看板商品。同社は2024年に同町に進出し、1日約4万5000羽の鶏肉を加工販売している。

これを受け町は、森林どりを使った新メニューの開発を町内外の飲食店事業者らに呼び掛け。お披露目の場として遠田商工会がフェスティバルを主催した。



森林どりを使った新メニューを売り出した